



Current situation and challenges in employment of Indonesian nursing/certified care worker candidates based on economic partnership agreement between Indonesia and Japan

金川, 真理

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2013-03-25

(Date of Publication)

2013-05-08

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲5843

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1005843>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(別紙1)

論文審査の結果の要旨

氏 名	金川 真理		
論文題目	Current situation and challenges in employment of Indonesian nursing/certified care worker candidates based on economic partnership agreement between Indonesia and Japan (経済連携協定に基づくインドネシア人看護師・介護士候補者の就労の現状と課題) (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)		
審査委員	区 分	職 名	氏 名
	主 査	教授	松尾 博哉
	副 査	教授	中澤 港
	副 査	教授	齋藤 いずみ
	副 査		印
要 旨			
本研究では、経済連携協定に基づき来日したインドネシア人看護師・介護士候補者の就労前後における日常生活状況と健康状態の変化、就労研修の現状と国家試験合格に向けた準備状況を検討した。対象はインドネシア人看護師・介護士候補者208名で、日常生活状況、サポートシステム、健康状態、不安心理尺度STAI、勤務状況と仕事内容ならびに国家試験の準備状況が調べられた。結果、彼らは就労前後共に日本語の問題について最も関心が高かった。主な仕事内容は排泄介助、食事介助、および物品整備であった。身体的および精神的健康状態は共に、就労前に比べて就労後に悪化していた。STAIでは、女性に比して男性の方が、年齢で比べると若い人の方がSTAI得点はより高い傾向を示した。また、日本人の同僚への印象では印象が悪いことや関わりが困難であること、仕事への満足度が低いことがSTAI得点と関連していた。本研究から、インドネシア人看護師・介護士候補者の健康状態を支援するためには、彼らの背景を理解したうえで関わること、彼らと日本人の同僚とが良好な関係を形成できること、看護師候補者の場合は看護師としてのトレーニングを受ける機会を作ることが必要であると考えられた。本研究は、インドネシア人看護師・介護士候補者の現状と課題、必要な支援を示す貴重な知見である。よって学位申請者の金川真理は博士(保健学)の学位を得る資格があると認める。			
掲載論文名・著者名・掲載(予定)誌名・巻(号)、頁、発行(予定)年を記入してください。 Current Status and Challenges in Employment of Indonesian Nursing/Certified Care Worker Candidates Based on an Economic Partnership Agreements between Indonesia and Japan. Mari Kinkawa, Elsi Dwi Hapsari, Hiroya Matsuo, Bulletin of Health Sciences Kobe, 28, 2013, in press			

論文内容の要旨

専攻領域 国際保健学領域

専攻分野 国際保健協力活動分野

氏 名 金川真理

論文題目

Current situation and challenges in employment of Indonesian nursing/certified care worker candidates based on economic partnership agreement between Indonesia and Japan (経済連携協定に基づくインドネシア人看護師・介護士候補者の就労の現状と課題)

論文内容の要旨

本研究では、経済連携協定に基づき来日したインドネシア人看護師・介護士候補者の就労前後における日常生活状況と健康状態の変化、および就労後の彼らの就労研修中の現状と日本語での国家試験合格に向けた準備状況について調べた。対象者は経済連携協定に基づき2008年に来日したインドネシア人看護師・介護士候補者208名であった。彼らの就労前と就労後6カ月後において、「日常生活状況」、「サポートシステム」、「健康状態」、「不安心理尺度 STAI」で構成した質問紙を用いて2回調査した。就労後の質問紙では、「勤務状況と仕事内容」ならびに「国家試験の準備状況」について質問を加えた。就労前には68名の被験者が、就労後には50名の被験者が参加した。その結果、インドネシア人看護師・介護士候補者は就労前後共に日本語の問題について最も関心が高かった。看護師・介護士候補者の主な仕事内容は排泄介助、食事介助、および物品整備であった。看護師・介護士候補者の身体的健康状態および精神的健康状態は共に、就労前に比べて就労後に悪化していた。STAIでは、看護師・介護士候補者のうち女性と比べて男性の方が、年齢で比べると若い人の方がSTAI得点はより高い傾向を示した。また、日本人の同僚への印象では印象が良いと感じている人と比べて印象が悪いと感じている人の方が、日本人の同僚との関わりでは困難がない人と比べて困難がある人の方が、さらに、仕事への満足度が高い人と比べて低い人の方が、同様にSTAI得点はより高い傾向を示した。本研究から、インドネシア人看護師・介護士候補者は、日常生活では就労前後共に、日本語に関する支援を最も必要としていたことが示唆された。一方、看護師候補者は国家試験に合格するまで看護助手業務が主で看護師業務の機会ほとんどなかった。このことから、看護師候補者は就労後に看護師としてトレーニングを受ける機会を必要としていることも推察された。インドネシア人看護師・介護士候補者の健康状態は、彼らの背景や日本人の同僚への感情、または仕事への満足度に関連していた。このことから、彼らの健康状態を支援するためには、彼らの背景を理解したうえで関わること、彼らと日本人の同僚とが良好な関係を形成できること、看護師候補者の場合は看護師としてのトレーニングを受ける機会を作るなど、より仕事への満足度が高まる支援を行なうことが必要であると考えられた。今後は、これらの現状と課題を改善するための国家試験合格に向けた教育的な教育プログラムを開発し、実行する必要がある。

指導教員氏名：松尾 博哉